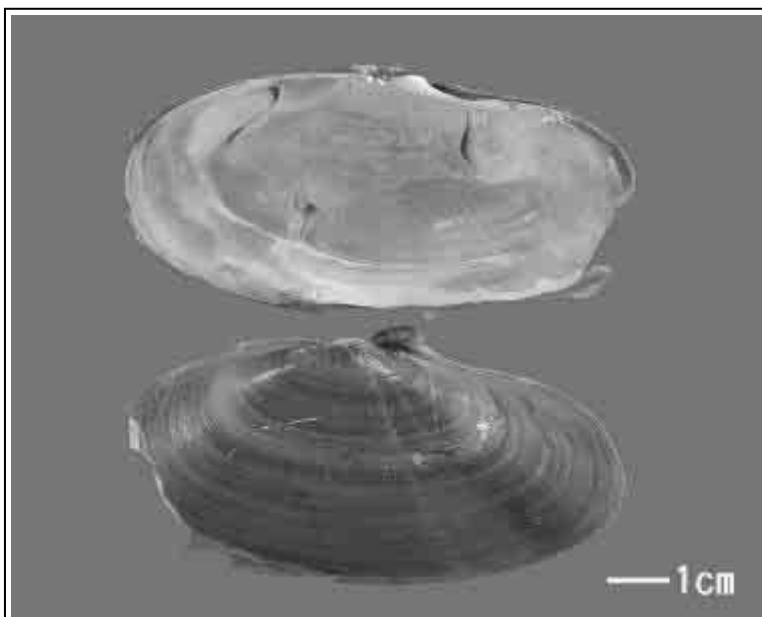


ムラサキガイ *Soletellina diphos* (Linnaeus)

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての砂泥干潟から潮下帯に生息する。本県でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。本種はかつては普通に生息していた浜名湖や博多湾では絶滅し、分布全域で生息場所が激減し、現在健全な個体群が保存されている場所は知られていない(和田ほか,1996)。伊勢湾の三重県側では1980年代半ばまでは死殻が打ち上げられて採集される場所があったが、現在、そのような場所は確認されていない。本県側の伊勢湾や三河湾でも近年生貝はおろか、死殻すら非常に稀である。近年蒲都市三谷地先人工干潟)で1個体のみ生貝が採集された。和田ほか(1996)では、絶滅寸前とランクされている。



蒲都市三谷地先人工干潟, 2006年3月18日, 浅井 功 採集

【形態】

殻長約8cm、殻は大型で前後に長い楕円形。殻はやや薄く、濃い紫色。殻表は平滑で、褐色の厚い殻皮に覆われている。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、近年生息が確認できない。大型種で殻は目立つが、死殻さえ稀である。

【世界及び国内の分布】

日本、台湾。国内では房総半島以南九州南部まで分布する。

【生息地の環境/生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況/減少の要因】

上述したような干潟の環境は破壊されているため、本種の生息場所、生息数とも著しく減少したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

県内分布図



【特記事項】

千葉県(2000)では絶滅生物にランクされている。

【引用文献】

千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.